

ならのがんに関する患者意識調査票(案)の意見照会結果一覧

資料2-3

	該当ページ	該当箇所	ご意見	理由	対応(事務局案)
1	1ページ	問2	「小児がん」を選択肢に加えてほしい	問57をみると小児も対象になっているので。ただし、細かくなると選択が難しくなるので、「小児がん」という問を足すぐらいにしておいた方がよいかと思います	問2はがんと診断された部位の設問です。問57に年齢を問う設問があり、小児がん患者の回答割合が分かります。
2	2ページ	問6 選択肢8	8.大きな病院で安心だと思ったから	日本語が不自然なので、左記への変更を提案します。	「安心できそう」の文言に修正します。
3	2ページ	問9	2ページの問9に『問8のいずれかの項目で「やや不満である」「非常に不満である」と回答された方にお伺いします。不満な点は具体的にどのような点ですか。』とありますが、「非常に満足している。」「やや満足している。」の方にも、何を満足しているかを調査しても良いのではないのでしょうか。	患者は何と求めているかが分かります。	ご意見のとおり修正します。
4	3ページ	問13	「将来妊娠する可能性がある方・子供を設ける可能性のある方のみお答えください。」と前置きを入れたほうが良いと思います。		問13は全ての患者さんに最初のがん治療が開始される前に医師から生殖機能(妊孕性)への影響を説明されたか問う設問です。また、経年比較の必要があるため、令和3年度調査に文言を統一します。
5	3ページ	問12	「疑問や意見」を、「疑問や不安、思い」に変えてはどうか。	疑問はあると思うが、患者が医者に意見を言うイメージがない	経年比較の必要があるため、令和3年度調査に文言を統一します。
6	3ページ	問11 選択肢5	問13 ・14 15 の質問の展開 、、13の前に『妊孕性についてお聞きします』があるといいのか。	理由は明確ではありませんが、説明を受けていない内容はすべて『妊孕性』に関する内容であるのか、と考えたところがあります	問11は現在かかっている病院の医師からの説明に関する設問であり、問13は最初のがん治療が開始される前の説明に関する設問です。
7	4ページ	問21	左記赤字の内容では、回答者がイメージしづらいのではないか。「がんになったことによる生活上の様々な不安」とすると、社会的苦痛もイメージしやすいのではないかと考える。	緩和ケアは、身体的・精神的つらさのみではなく、社会的苦痛、スピリチュアルペインからなる全人的苦痛を和らげるものであるため。	緩和ケアの定義を引用しており、意識調査によって「緩和ケア」を知っていただく機会となるので修正しません。
8	4ページ 5ページ 7ページ	問20 問24-2、24-4 問34	選択肢に「そう思う」が2つある 右端の「そう思う」のみ字体が異なる。右端の選択肢は「そう思わない」に変更が必要。		ご意見のとおり修正します。
9	5～6ページ	問27～32	これは全員に聞くべき問でしょうか？	(ちゃんと理解できていないので誤解していただきます)寛解を得て普通に過ごしている方にとっては唐突な質問になるかと思います。少し質問対象者を絞れるように配慮が必要ではないでしょうか？	在宅療養(在宅緩和ケア)に関する認知度の設問であり、通院、入院に関わらず全てのがん患者さんに対する意識調査です。

	該当ページ	該当箇所	ご意見	理由	対応(事務局案)
10	6ページ	問29	項目追加 7. 介護保険の利用対象者の拡充	AYA世代のがん患者は、国の社会制度が乏しい年代である。自宅に帰りたくても、ベッドや車いすといった福祉用具の利用、ヘルパーの利用、住宅改修が必要であっても金銭的な面で実施できず、自宅に帰ることができないAYA世代も実際経験する。AYA世代がん患者は、未成年の子どもを持つ世代でもあり、家族と過ごす時間が患者本人、また家族の「今とこれから」にとっても大切なものとなる。AYA世代がん患者の療養生活における困りごとの実態がつかめれば、国や県、市町村での制度の整備に繋がるのではと考える。実際に国の制度が整わない中、各都道府県や市町村でAYA世代がん患者の支援が始まっている。奈良県では生駒市のみが「若年者の在宅ターミナルケア支援事業」を行っており、とても大切な取り組みだと考える。ただ、制度の名称に「ターミナル」の文言があるとAYA世代がん患者が利用しづらいといった意見もあるようであり、制度の名称についても注意を払う必要があると考える。	介護保険の利用対象者を小児AYA世代にも拡充することについては、問57に年齢を問う設問があり、選択肢7、8で網羅できるため追加しません。
11	6～7ページ	問33～問34	問33と34の順番を入れ替える。 現問33の設問文章を「問33で回答した情報を得るための情報源や相談先はありますか」に変更。	先に「知りたい情報は何で情報が不十分ではないか」を尋ね、次にそれらの情報を入手する方法を持ち合わせているかを訪ねるほうが回答者に質問の意図が伝わりやすいと思います。	令和3年度調査と経年比較をするため、設問の順番変更及び設問の変更しません。
12	7ページ	問34	内容に関して、不十分と感じていない人(十分と感じている人)は回答なしでよろしいでしょうか。5段階での項目が左・右の記載が、『そう思う』で同じ評価の言葉ですがよろしいでしょうか		ご意見のとおり「そう思わない」に修正します。
13	7ページ	問38 選択肢1及び4	1.相談を必要としなかった 4.相談できた ↓変更 1.相談できた 4.相談を必要としなかった	設問の趣旨から考えて、左記順序の方が自然	令和3年度調査の時は、がんの治療による外見の変化(アピアランスケア)アピアランスケアの認知度が進んでいるため、ご意見のとおり修正します。
14	7ページ	問39	<u>がんと診断されたことによる心配や悩みは、何らかの相談支援によって現在は軽減されたと思いますか。</u> ↓変更 <u>がん相談支援センター等に相談することによって心配や悩みが</u> 現在は軽減されたと思いますか	「がんと診断されたことによる」と書いてしまうと、診断直後の心配や悩みのみを指すと回答者が捉える可能性があると思います。また、「何らかの相談支援によって」という文言があることで回りくどく感じるので、シンプルに左記の文章を提案いたします。 ひとつ気になるのは、「誰に相談したらいいかわからなかった」人や、「がん相談支援センターの存在を知らない」人は問39の回答時に何を選択したらいいのかわかりづらいのではないかと思います。	がんと診断された直後による心配や悩みは何らかの相談支援によって軽減されたかを問う設問ですので修正しません。また、がん相談支援センター等の文言を入れることで、他の相談支援による心配や悩みの軽減がイメージしにくくなると考えられるため修正しません。
15	8ページ	問40	あなたの職場は、の対象は現在就労しておられる方の対象ととらえるのか	問41はがんと最初に診断されたときの、と書かれておりわかりやすい。	就労の有無を問わず、全てのがん患者に対する意識調査であり、「がん治療を受けながら、働き続けられる社会だと思いますか」の設問に修正いたします。
16	8ページ	問40	仕事をしていないの選択肢を追加	仕事をしていない人もいるが選択肢がないと困る為	
17	8ページ	問40 問41	問40と問41を入れ替える	問40「あなたの職場は」とありますが、いつの時点での職場かがわかりにくいです。また、無職や学生など就労していない方の選択肢がありません。 問41で尋ねている「最初のがんと診断された時の就労状況」を先に訪ねてから、該当する人のみ「あなたの職場が働き続けられる環境か」を尋ねるほうが回答しやすいと思います。	就労の有無を問わず、全てのがん患者に対する意識調査であり、「がん治療を受けながら、働き続けられる社会だと思いますか」の設問に修正します。

	該当ページ	該当箇所	ご意見	理由	対応(事務局案)
18	8ページ 9ページ	問43 問47	項目追加 社内で利用できる制度の説明 利用できる国の社会制度の説明	両立支援は、医療機関のみで行うものではないため、企業側での利用可能な社内制度や国の社会制度の説明を行えば、診断後や治療時の離職防止に繋がるのではないかと考える。	令和3年度調査では、その他のご意見に社内で利用できる制度の説明、利用できる国の社会制度の説明の回答はございませんでしたので追加しません。
19	9ページ	問48	変更案 <u>生活上の困難を解消・解決するために</u> 選択肢追加 6.がん患者が利用できる所得保障制度や専用求人 の充実	相談支援の現場で感じるのは、相談に繋がったとしても利用できる制度がない、現状では解決が困難で相談前と状況が変わらないという状況が非常に多いことです。必要な方に情報が伝わることは大前提ですが、いくら相談支援体制が充実して相談員のスキルがアップしても繋げる先に制度がない、受け皿がない状況では解決できないということを感じています。問29では「訪問看護・訪問介護の利用対象拡大」という制度変革に踏み込んだ選択肢もあるので、本設問でも左記選択肢を追加いただき、関係部署とも連携いただいて施策に反映いただければ幸いです。	情報提供や相談体制について問う設問です。「生活上の困難に関する情報提供や相談支援を受ける場合」に修正します。
20	10ページ	問53	項目追加 がん治療との両立のための就学継続の支援	A世代のがん患者にとって、学校の存在は大きいと考えるため項目の追加を希望する。	令和3年度調査では、その他の項目にて治療と学業の両立に関する回答はありませんでした。第4期奈良県がん対策推進計画では、がん患者の治療と仕事や学業との両立支援体制の整備として、「がん相談支援センターにおける「社会生活(学業)」に関する相談件数」を指標としています。よって、選択肢の11をがんにより就労、就学が困難になった際の相談・支援体制の整備に修正します
21	最後	最後のページの「次ページにも記載」	最後のページの「次ページにも記載」という文言を削除。	不要であるため。	ご意見のとおり削除します。
22			当会としては意見はございません。今後再調査を予定される際に、「口腔内の有害事象の有無」や「歯科診療所の受診、口腔内の症状で困ったこと」等を問うことができれば今後の事業の参考になるかと思っております。		ならのがんに関する患者意識調査は、第4期奈良県がん対策推進計画の評価指標を調査項目としています。
23			調査票に誤字が結構ありましたので、内容だけ再度ご確認ください。		再度確認し、修正済みです。